

第34回 鹿児島県PTA連合会「小・中・高・特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

1 総合所見

- (1) 本年度は、コロナ禍の影響で、コンクール応募数が、例年に比して3割ほど減少となったが、工夫を凝らした広報紙が散見された。PTA活動が思うように進めることができず、広報紙制作にも苦慮されたところも多かったことと推察する。コロナの早期収束を願い、次年度の多数の応募をご期待申し上げます。
- (2) 応募された広報紙の多くは、年間3回発行している。校種・学校規模に応じて内容の充実が図られ、PTA活動活性化のための広報紙づくりへの意欲と努力が感じられた。
- (3) 紙面構成を工夫し、読者の購読意欲を駆り立てている広報紙が目についた。特に、一面に何を持ってくるか（テーマ、写真、目次的なもの等）ということは、大きな視点となる。
- (4) 小学校では、コロナ禍でPTA活動に制約を受けた中、紙面構成を工夫して、子供の姿、会員の声、PTAを取り巻く課題等について、PTAの切り口で会員が知りたい記事を取材の視点としていた。また、保護者が興味を持つ新しい教育活動としてのプログラミング学習を扱ったり、読者に読みやすくするため、Q&A形式にしたりしていたPTAがあった。最優秀となったPTAは、紙面構成、特集記事など工夫された紙面となっていた。
- (5) 中学校では、コロナ禍でありながら、PTA活動を中心として、学校行事、子供の姿を幅広く取材され、充実した広報紙を作成されていることに敬意を表したい。写真や文字の大きさ、配置など、全体の構成が工夫されたものが多かった。新型コロナ対策に着目した記事も多く、世の動きに反応する会員の姿が見られた。また、家庭内川柳を紹介した広報紙が、興味深く目にとまった。
- (6) 高等学校では、レイアウトやカラー化、写真の効果的使い方など、年々向上している。小・中学校同様、コロナウィルス感染拡大防止を取り扱ったPTAが多くあった。また、これからの進学と関連付け、大学での学びのことや大学入学共通テストに関する記事も多かった。
- (7) 特別支援学校では、他の校種以上に医療面の配慮を行い児童・生徒へのコロナウィルス感染を防ぐために、校内への立ち入りが制限され、取材活動が思うようにできなかったという声があった。そういう中であって、PTAの関わりを記事や写真で工夫して紹介していた。
- (8) 本年度は、県PTA広報紙担当者研修会が開催できず、広報紙作成の学びの機会が限られた中、独自に研修会を開催された地区もあり、各校の広報部員の方々が、魅力的な広報紙作りを目指して創意工夫され、紙面の充実と質の向上が図られているのが紙面から窺われ喜ばしいことである。

2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 全校種に言えることであるが、学校便りになりがちである。学校行事の紹介だけでなく、PTAとして、どのような視点で、どのような活動を行っているか等、具体的に取材し、記事にしてほしい。そうすることで、PTA広報紙としての特色が顕著となり、学校便りとの違いが出せる広報紙になってくると思う。
- (2) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。年間テーマに沿った記事や写真が集まると、記事の内容に厚みが出る。
- (3) 今後も、広報紙担当者研修会に参加したり、優秀校の広報紙を参考にしたりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。